



NPO法人 京都舞台芸術協会
Kyoto Performing Arts Organization

特定非営利活動法人 京都舞台芸術協会 2025 年度 定例総会

～資料～

本年度定例総会はオンラインビデオチャット方式で行います

とき：2025年6月3日（火）19:30～21:30（ビデオチャットは19:20より開設）

※ご出席方法などは別紙案内をご覧ください

次第

1. 開会
2. 理事長あいさつ
3. 議長の選任（P. 2）
4. 議事（審議事項）
 - ・ 第1号議案 2024年度 活動報告（P. 2）
 - ・ 第2号議案 2024年度 収支決算報告（P. 11）
～会計監査報告～（P. 12）
 - ・ 第3号議案 2025年度 活動計画（案）（P. 13）
 - ・ 第4号議案 2025年度 収支予算（案）（P. 18）
5. 会議録（理事会）（P. 19）
6. 議事録署名人の選任（P. 19）
7. 閉会

議長の選任

定款第26条にもとづき、総会出席者の中から議事をすすめる議長を選出します。
以降、議長は総会の進行を務めます。

■ 定款 第26条

第5章 総会

(議長)

第26条 総会の議長は、その総会において、出席した正会員の中から選出する。

第1号議案 2024年度活動報告

2024年度に京都舞台芸術協会が行った活動

■ A 互助事業

- ① 【継続】「なんでも相談窓口」の運営
- ② 【継続】舞台芸術家の交流事業「交流会」

■ B 企画事業

- ① 【継続】インターンシップ受入
- ② 【継続】舞台表現と「インティマシーシーン」について考えるレクチャー&ワークショップ
- ③ 【継続】京都舞台芸術協会アーカイブ
- ④ 【新規】俳優を続けたい人のためのワークショップ
- ⑤ 【新規】Notes of Actors 2025

■ C 連携事業

- ① 【継続】舞台芸術プロデュース講座～演劇・ダンス編～
- ② 【継続】「ようこそアーティスト文化芸術とくべつ授業」へのアーティスト推薦
- ③ 【継続】各団体への後援、共催など

■ D 発信事業

- ① 【継続】情報発信（WEBサイト・会報・SNS）
- ② 【新規】四半期だべりば

A 互助事業

① 【継続】「なんでも相談窓口」の運営

■ 目的

2018年度から継続して、京都における舞台芸術活動に関わる相談を受け付ける「なんでも相談窓口」のメールフォームをウェブサイト上に設置、運用。相談者個別の問題の解決をサポートすると同時に、その問題が多くの人にとって共通する課題である場合には、その課題解決に資する事業を次年度以降に組み込む等、インフラとしての機能をより強化する。

■ 実施内容

日時：通年

形態：協会 WEB サイトに専用メールフォームを設置、および代表メールアドレス宛の問合せ対応

2024 年度相談件数：5

■ 成果と課題

2024 年度は専用メールフォームより 5 件の相談が寄せられた。その中には、これまでの窓口運営の中でも散見されたスタッフなど人的ネットワークの紹介、京都外の団体がツアー公演で訪れる際の広報協力も含まれている。また、中には WEB での検索で協会の存在を知ったという声もあり、恒常的に開放している窓口の意義が感じられた。引き続き、窓口の設置と周知に努めていきたい。

② 【継続】 舞台芸術家の交流事業「交流会」

■ 目的

2018 年度より継続している「交流会」事業に本年度も取り組む。これまで交流会事業は協会員・非協会員をつなぐ場として、また、協会のことをより深く知るきっかけとして機能してきた。コロナ禍以降、オンラインでの実施が中心となっていたが、対面での実施にも取り組むことで、より実効的なネットワーキングの機会創出を目指す。

■ 実施内容

「京都という創作環境をめぐる vol. 7」

日時：2024 年 7 月 25 日（木）19:00～21:00

会場：Collabo Earth E9

参加費：1,500 円 ※京都舞台芸術協会の会員は 500 円引き

参加者：29 名

協力：一般社団法人アーツシード京都

「こどもとアート：体験から広がるあそびと創造性を巡って」

日時：2025 年 1 月 11 日（土）14:00～16:00

会場：knocks! Horikawa

参加費：1,000 円 ※京都舞台芸術協会の会員は 500 円引き

参加者：9 名

協力：knocks! horikawa 運営委員会

■ 成果と課題

「京都という創作環境をめぐる」では、2019 年ぶりに対面での開催となったが、THEATRE E9 KYOTO の二階にあるワーキングオフィス「Collabo Earth E9」に、劇団に所属している方、劇場スタッフ、フリーランスの俳優、研究者、振付家など、さまざまな分野／立場で活動をされている方々が総勢 29 名集まった。1/3 は会員、2/3 は非会員、という人数構成で、最近関西に移住してきたという方も参加されていた。ふだん活動している現場ではなかなかコミュニティが重ならない人や、名前は知っていたけれど話す機会がなかった人とも出会い、名刺やチラシを交換しあっている様子は、対面だからこそその出来事であった。

また、「こどもとアート」では、ゲストの方を招き、事例紹介と参加者とのディスカッションを行った。学生の方から現在ワークショップのファシリテーターやコーディネーターとして活躍する方々が集い、活動ジャンルも演劇やダンス、音楽の方まで幅広く集まって、交流や情報交換が行われた。実例も交えたお話をゲストの方からいただく中で、参加者のなかにも気づきや刺激が生まれ、会の終了後も多くの方がそのまま会場に残り、お話を続けていた。今後の開催の機会では、実際のワークショップの体験をすることでやるまでやってみることもおもしろいのではと感じている。

今後とも、舞台芸術関係者がつながる機会を継続的に作るとともに協会活動を知ってもらうきっかけとして交流会を活用していきたい。

B 企画事業

① 【継続】 インターンシップ受入

■ 目的

若手育成の場として実施する。主には舞台芸術活動を志す 18 歳以上の若手を対象とする。京都の舞台芸術について知ってもらい、活動における選択肢を増やし、各々の舞台芸術への関わり方をインターン生自身で模索する機会となることを目指す。この事業を通じて、協会としても若手と繋がり、彼らにどういった活動支援が重要か検討し、様々な実践へと繋げていくことを目的とする。

■ 実施内容

公募により 2 名のインターン生を選定。

2024 年 8 月～2025 年 5 月までの期間活動した。

主な活動内容

- ・毎月の理事会への参加と議事録の担当
- ・主催事業へのスタッフ参加
- ・京都の舞台芸術関係施設（THEATRE E9 KYOTO、芸術準備室ハイセン、HAPS、京都芸術センター）の訪問と、訪問後レポートの作成
- ・イベント『気持ちのいい』創作環境を考える交流会」の企画実施

スケジュール

2024 年

- | | |
|--------------|--------------------------------|
| 6 月下旬～ | インターン生の公募 |
| 7 月 5 日（金） | オンライン説明会を実施 |
| 7 月中旬～7 月下旬 | 面接と選考 |
| 8 月 29 日（木） | 理事会へ初出席 |
| 10 月 6 日（日） | 芸術準備室ハイセンへの訪問 |
| 11 月 20 日（水） | 京都芸術センター・THEATRE E9 KYOTO への訪問 |
| 12 月 4 日（水） | HAPS オフィスへの訪問 |

2025 年

- | | |
|-------------|---|
| 1 月 26 日（日） | 舞台表現と「インティマシーシーン」について考えるレクチャー&ワークショップ
スタッフ参加 |
| 3 月 3 日（月） | 俳優を続けたい人のためのワークショップ スタッフ参加 |
| 3 月 14 日（金） | インターン生企画のためのミーティング① |
| 4 月 24 日（木） | インターン生企画のためのミーティング② |

インターン生企画『気持ちのいい』創作環境を考える交流会

日時：2025 年 5 月 30 日（土）14:30～16:30

会場：京都市東山青少年活動センター ロビー

参加費：無料

協力：京都市東山青少年活動センター

■ 成果と課題

京都舞台芸術協会のインターンシップ企画の実施は 4 年目となった。今年度は施設訪問・関係者インタビューを中心に活動した。芸術準備室ハイセン、京都芸術センター、HAPS、THEATRE E9 KYOTO、の 4 カ所をまわり、それぞれの施設のみなさんにお話を聞いた。また協会の事業の受付の手伝いや理事会にも積極的に参加した。

次回実施に向けた課題は、制作現場の見学を積極的に促していくという点である。現理事は演出家、制作、劇作家、俳優、舞台美術家と異なるセクションで制作に取り組んでいる。その多様さを活かし、“実際に何かをつくる過程”を見て頂ける機会を創出していくことを目指す。

② 【継続】舞台表現と「インティマシーシーン」について考えるレクチャー&ワークショップ

※活動計画案時の事業タイトル：舞台芸術と表現について考えるレクチャー・ワークショップ

■ 実施内容

2022 年度から京都芸術センターと共同主催で取り組んでいる、観客と作り手、そして作品を守るために、舞台芸術の制作や発表の場において必要な知識を学び、対話するレクチャー&ワークショップ。2024 年度は「インティマシーシーン」をテーマにし、日本国内で数名しかいないインティマシーコーディネーターとして活動をされている浅田智穂氏を講師に迎え実施した。

日時：2025 年 1 月 26 日(日)14:00~16:00

会場：京都芸術センター 大広間

講師：浅田智穂

対象：舞台芸術に携わっている方

参加者：11 名

料金：1,000 円

主催：京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、NPO 法人京都舞台芸術協会

■ 成果と課題

ヌードや性的な接触を含むシーンにおける俳優の安全を守り、また、表現の意図を最大限実現するために俳優と制作側の間に入って行うインティマシーコーディネーターの仕事、浅田氏にレクチャーしていただいた。映像の現場で注目を集めている職能だが、アメリカでは舞台芸術の分野でも同様の職能があること、また、浅田氏が舞台芸術の分野でも活動していることなども話題に上がった。参加者からの質疑も活発で、ディスカッションも熱のこもったものになった。内容は充実していたが、広報の期間が短かったこともあり、参加者数が伸びなかったことが反省点として残る。

③ 【継続】京都舞台芸術協会アーカイブ

■ 目的

協会の歴史を辿り直すことで、京都における舞台芸術の状況の変遷を概観し、それをもとに対話を広げていくことで、将来に向けて協会がどのような組織であるべきか、また京都の環境がどのように変わっていくべきかの指針をあらためて検討する。

■ 実施内容

協会でも保管をしていた会報 1996 年 1 号~2003 年 45 号、2005 年 53 号~55 号、2017 年夏号~2024 年 3 月号のデジタル化（PDF データ化）作業を行った。各会報の概要をスプレッドシート上で閲覧できるよう、リスト化した。並行して、協会の活動年表の作成を進めている。

④ 【新規】俳優を続けたい人のためのワークショップ

■ 目的

俳優の技術向上を目指す企画。身体と座学にテーマを分け、それぞれのジャンルにまつわる講師を招き、俳優の技術を向上するためのレクチャーや身体ワークを行う。今年はダンサー、能楽師、声楽、演出家といった様々なジャンルの方を講師として迎えた。対面での実施。

■ 実施内容

【夏季編】

会場：京都市東山いきいき市民活動センター

料金：各回 2,500 円、両日参加 4,500 円

※京都舞台芸術協会会員は各券種より 500 円引き

足立 七瀬氏：ダンス

日時：2024 年 8 月 22 日（木）18:30～21:00

参加者：5 名

河村 浩太郎氏：能楽

日時：2024 年 8 月 29 日（木）18:30～21:00

会場：京都市東山いきいき市民活動センター

参加者：5 名

【冬季編】

会場：アートコミュニティスペース KAIKA

料金：各回 2,500 円、両日参加 4,500 円

※京都舞台芸術協会会員は各券種より 500 円引き

木下 出氏：声

日時：2025 年 3 月 3 日（月）19:00～21:30

参加者：9 名

鳴海 康平氏：戯曲読解

日時：2025 年 3 月 8 日（土）13:00～17:00

参加者：8 名

■ 成果と課題

例年開催されてきた俳優向け WS を 2024 年度も行った。「舞台に携わる多様なジャンルの講師と出会い異なる角度から演劇/演技を見つめ知る」をテーマとし、今年度は夏季・冬季と、2 期に分けて開催した。両回ともに参加者が積極的にワークを行う姿勢が見受けられ、広義に「舞台芸術の面白さ」や「舞台に立つうえでの技術」を味わうことができたように感じられた。

参加者が 20 代後半以上の方が多く、学生の参加が少なかったことが課題として残った。20 代前半の学生の方にも参加していただきやすい広報や料金設定を検討し、より若い方々へ興味をもていただくことを目指す。

⑤ 【新規】 Notes of Actors 2025

■ 目的

京都の演劇界は大学時代のつながりや縁故に強く依存しており、出演者は同世代や決まった範囲に限定されがちであり、俳優個人個人の考え方をアピールする機会も少ない。

そこで本企画では、俳優に5分から20分程度の自由な表現時間を与え、動画を撮影・公開する。事前に指定された10程度の共通の質問をもとにインタビューを行い、撮影・公開する。出演者は京都府内で俳優として活動する意志があることが条件である。この企画によって、俳優が何を目指し、何を考えているのか、その一部が伝わり、よい作品創作機会・創作環境につながることを期待できる。

なお、動画は撮影から3年の経過後本人からの意思表示がなければ削除する。第1回目の出演人数目標は10名である。映像撮影費用、当日スタッフ費用、俳優出演費用が必要となる。予算が増加するけれども、あえてリスクをとって、京都舞台芸術協会のイベントとして有料観客で行う可能性も視野に入れたい。

■ 内容

(1) 俳優10名による、5分から20分程度のパフォーマンス動画の撮影・公開

(2) 上記と同時に、インタビュー動画の撮影・公開

理事会内で、実施について厳正に検討した結果、費用面や人員の面で現時点での実施は困難と判断した。ただし、すでに書いた通り意義は十分にあるので今後も実施の機会を伺いたい。

C 連携事業

① 【継続】 舞台芸術プロデュース講座～演劇・ダンス編～

■ 実施内容

2022年度より事業開始。企画プロデュース・マネジメントについて学び、地域の未来の担い手を育てる専門人材の育成プログラムとして、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、KYOTO EXPERIMENT、京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、京都市らと共に主催した。

各回にさまざまな地域・職能で活動する講師を迎え、舞台芸術プロデュース、舞台制作、マネジメントに関するレクチャーとゼミ形式のワークショップを行った。連続講座は各回完結の形で実施したため、通し受講だけでなく、単発受講の申し込みも受け付けた。通し受講は21名、単発受講は合計52名で、全回の延べ参加者数は200名。

講座内容

2024年11月～2025年1月、全8回

レクチャー＋ワークショップ（各80分）

レクチャー講師：小倉由佳子（ロームシアター京都 プログラムディレクター）、門脇俊輔（ニットキャップシアター制作・俳優）、片山知音（匿名劇壇制作／合同会社 Booster）、渡邊裕史（ソノノチ 制作者／ワークショップデザイナー）、相馬千秋（NPO 法人芸術公社 代表理事、アートプロデューサー）、上地里佳（沖縄アーツカウンシル チーフプログラムオフィサー）、原智治（京都市文化芸術企画課 担当課長）、倉田翠（まつもと市民芸術館 芸術監督 [舞踊部門]・akakilike 主宰）、小川知子（まつもと市民芸術館 プロデューサー）、小島寛大（芸術文化観光専門職大学）武田知也（舞台芸術プロデューサー・一般社団法人ベンチ代表理事）

ワークショップファシリテーター：渡邊裕史

アドバイザー：小倉由佳子、川崎陽子、西田祥子、和田ながら、渡邊裕史

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、KYOTO EXPERIMENT、NPO 法人京都舞台芸

術協会、京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、京都市
助成：文化庁文化芸術振興費補助金
劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業（地域の中核劇場・音楽堂等活性化）
独立行政法人日本芸術文化振興会
KYOTO EXPERIMENT 2024 提携プログラム

運営メンバー：川崎陽子（KYOTO EXPERIMENT）、和田ながら・吉岡ちひろ（NPO 法人京都舞台芸術協会）、西田祥子・
原田直子（京都芸術センター）、小倉由佳子・山形ゆき・木原里佳（ロームシアター京都）

■ 成果と課題

参加者の年齢層は 20 代から 60 代までおり、学生の参加者が全体の 3 割ほどを占めるなどユース層の参加が増え、アート業界での就業のための研鑽や地域で活動する制作者を中心としたネットワーク構築のニーズは引き続き感じられた。また、この業界でキャリアを始めたがしっかり学ぶ機会がなかったので受講したという文化関係の職員や施設運営者などもおり、アート業界で活動する者と志す者が交わり合う場としても機能していた。特に、ゼミ形式のワークショップでは、参加者と対話を通じて深い学び合いを行うことができ、終了後も学び合いの場が開催されるなどの交流が続いている。

② 【継続】「ようこそアーティスト文化芸術とくべつ授業」へのアーティスト推薦

■ 目的

京都市では、2007 年度から、芸術家を小中学校へ派遣する事業を始めた（京都市が公益財団法人京都市芸術文化協会に事業委託し、京都市芸術文化協会がアーティストと学校現場の仲介を行う）。その事業が「ようこそアーティスト文化芸術とくべつ授業」である。専門家集団である京都舞台芸術協会は窓口としての役割を果たし、芸術家の仕事について市民に広く知ってもらい、かつ舞台芸術の魅力をアピールする機会とする。

■ 実施内容

今年度は合計 3 校の講師推薦を行った。

演技・演出

- ・F. ジャパン（劇団衛星）：中学校 1 年生
- ・高間響（笑の内閣）：小学校 6 年生

舞台技術・スタッフ

- ・北方こだち（一般社団法人アーツシード京都）：中学校 1 年生

今年度は、中学校など比較的学年が高い学校からの応募が多く、将来のキャリアと結びつけて考える機会を期待されて、応募いただく機会が多かった。アーティストやアートに関連する仕事をしている人の生き方にも興味関心が広がっているのかもしれないと感じた。

③ 【継続】各団体のへの後援、共催など

■ 共催

演劇ビギナーズユニット 2024

期間：2024 年 5 月 26 日(月)～9 月 25 日(木)

会場：京都市東山青少年活動センター

主催：京都市東山青少年活動センター（指定管理者：公益財団法人 京都市ユースサービス協会）

■ 後援

Les Hommes du Désert 砂上の楼閣 Fortnite 版

日程：2024年10月12日

会場：FabCafeKyoto

主催：Eiko Yoshizumi Art Lab

D 発信事業

① 【継続】情報発信（WEBサイト・会報・SNS）

前年度に引き続き年2回会報の発行を行い、WEBサイト及びSNSを活用して協会で行う事業の情報発信が随時行われた。また、WEBサイトのリニューアルを行った。

各事業の情報発信が途切れなかった事もありX（旧Twitter）のフォロワー数は

2021年度末 367名

2022年度末 508名

2023年度末 613名

2025年5月4日時点で835名と順調な伸びを示した。

Facebook フォロワー数は

2023年度末 219人

2025年5月4日時点で249人

いいね数は

2023年度末 195件

2025年5月4日時点で216件となった。

② 【新規】四半期だべりば

■ 目的

2021年度より交流会事業として「月1だべりば」を開催してきたが、今年度は四半期ごとの事業紹介や活動報告などを含め広報的な目的をもって開催する。

■ 実施内容

協会で開催するX（旧Twitter）アカウントを使用し、協会理事や事務局メンバーがラジオ的に話す。

「月1だべりば」はテーマや目的を定めずに行う雑談的な良さもあったが、月に1度の開催では協会の主だった事業活動がない時期も多く、協会活動を知ってもらおうという目的に沿うため四半期に1度の開催に変更して開催した。

日時：

2024年

7月18日（木）19:00～21:00 87人が視聴

10月29日（火）19:00～21:00 133人が視聴

2025年

1月17日（金）19:00～21:00 30人が視聴

会場：「X（旧 Twitter）」のスペース機能

参加費：無料

視聴者：3 回合計 250 名

■ 成果と課題

2023 年度までは交流会として zoom での開催も行っていたが、2024 年度は X のスペース機能に絞ってラジオ的に生配信する形をとった。10 回合計 109 名の参加だった前年度に比べ参加者（視聴者）は格段に増え協会活動を知ってもらう機会は増えたものの、双方向性や新たな出会いを生むことが難しく、オンラインで開催し視聴者も増えたにもかかわらず、前年までよりも閉じた印象になった。

第2号議案 2024年度 収支決算報告

2024年度決算

収入

費目	細目	金額	備考
会費	個人会費・団体会員	¥228,000	18個人・14団体(過年度未納分を含む)
	賛助会費	¥12,000	4個人団体×3,000円
事業収入	交流会事業(創作環境)	¥38,500	参加費1,500円×19人(非協会員)、1,000円×10人(協会員)
	交流会事業(こどもとアート)	¥5,000	参加費1,000円×5人(非協会員)
	俳優WS参加費	¥65,500	
助成金		¥0	なし
雑収入		¥4,000	
受取利息		¥78	
当期収入合計		¥353,078	
前年度繰越金		¥359,648	
合計		¥712,726	

支出

費目	細目	金額	備考
事業費	互助事業	¥33,027	交流会事業(会場費・飲食費・ゲスト謝礼など)
	企画事業	¥75,278	俳優向けワークショップ(講師謝金等)
		¥0	協会アーカイブ
		¥0	Notes of Actors
		¥13,300	インターネット受け入れ
	発信事業	¥9,093	ウェブサイト運用(レンタルサーバー、ドメイン)
		¥11,761	会報作成・発送費
	協賛金	¥10,000	演劇ビギナーズユニット協賛金
	管理費		
	地代家賃	¥6,240	京都市市民活動総合センターロッカー(中)
	通信運搬費	¥25,685	郵送料、切手代、Zoom有料アカウントなど
	消耗品費	¥0	事務用品
	租税公課	¥250	印紙など
	諸会費	¥10,000	京都市芸術文化協会 会費(2024年度分)
	旅費交通費	¥0	事務局交通費など
	雑費	¥0	
	支払手数料	¥2,475	
当期支出合計		¥197,109	

当期収支差額 ¥155,969

次年度繰り越し金見込み ¥515,617

NPO法人 京都舞台芸術協会 令和7年3月31日現在 貸借対照表

資産	金額	負債・資本	金額
現金	¥35,506	預り金	¥0
ゆうちょ銀行	¥287	前受金	¥12,000
郵便振替口座	¥298,286	未払金	¥21,000
京都銀行	¥204,538		
		前期繰越正味財産	¥359,648
前払金	¥10,000	当期正味財産増減額	¥155,969
	¥548,617		¥548,617

会計監査報告

監査報告書

特定非営利活動法人京都舞台芸術協会
理事長 丸山 ながら 殿

特定非営利活動法人京都舞台芸術協会の2024年度会計について、通帳・帳簿・領収書を精査し、問題のないことを確認いたしました。

2025年5月19日

植村 純子 

2025年5月26日

水沼 加寿子 

第3号議案 2025年度活動計画（案）

2025年度の活動計画（案）

■ A 互助事業

- ① 【継続】「なんでも相談窓口」の運営
- ② 【継続】舞台芸術家の交流事業「交流会」

■ B 企画事業

- ① 【継続】インターンシップの受入
- ② 【継続】舞台芸術と表現について考えるレクチャー・ワークショップ
- ③ 【継続】京都舞台芸術協会アーカイブ/30周年企画
- ④ 【継続】俳優向けワークショップ
- ⑤ 【新規】京都から海外は目指せるか

■ C 連携事業

- ① 【継続】舞台芸術プロデュース講座～演劇・ダンス編～
- ② 【継続】「ようこそアーティスト文化芸術とくべつ授業」へのアーティスト推薦
- ③ 【継続】各団体への後援、共催など

■ D 発信事業

- ① 【継続】情報発信（WEBサイト・会報・SNS）
- ② 【継続】四半期だべりば

A 互助事業

① 【継続】「なんでも相談窓口」の運営

■ 目的

相談者個別の問題の解決をサポートすると同時に、その問題が多くの人にとっても共通する課題である場合には、その課題解決に資する事業を次年度以降に検討する等、インフラとしての協会の機能をより強化する。

■ 内容

京都における舞台芸術活動に関わる相談を受け付ける「なんでも相談窓口」のメールフォームをウェブサイト上に設置、運用する（2018年度より継続）。「なんでも相談窓口」に寄せられた相談については、理事会および事務局がメールもしくは対面／オンラインの面談によって対応する。相談内容に応じて、理事および協会のネットワークを活用し、アドバイス、施設・組織・人の紹介などのサポートを行う。また、理事会の知見の範疇を越える内容の場合は、課題解決に対して適切な専門家・機関とつなぐ。

② 【継続】舞台芸術家の交流事業「交流会」

■ 目的

前年度に引き続き、「交流会」事業を本年度も継続して行う。これまで交流会事業は協会員・非協会員をつなぐ場として、また、協会のことをより深く知るきっかけとして機能してきた。今年度も、引き続き、交流会の場を設けることで、協会や京都を中心としたネットワーキングの構築に向け多様な入口を準備していく。

■ 内容

「京都という創作環境をめぐる vol.8」

創造環境の整備や支援をミッションとする団体等のスタッフを多く招き、実演家も混ざりながら交流や情報交換を行う。

B 企画事業

① 【継続】 インターンシップの受入

■ 目的

若手育成の場としてインターンシップの受け入れを実施する。主には舞台芸術活動を志す18歳以上の若手を対象とする。京都の舞台芸術について知ってもらい、活動における選択肢を増やし、各々の舞台芸術への関わり方をインターン生自身で模索する機会となることを目指す。この事業を通じて、協会としても若手と繋がり、彼らにどういった活動支援が重要か検討し、様々な実践へと繋げていきたい。

■ 内容

演劇やダンス、テクニカルスタッフや制作者など分野を問わず、舞台芸術に興味関心がある人、あるいはすでに活動している人、活動を継続してきたい人を対象にインターン生を募集する。活動内容としては、以下を予定している。

- ・毎月の理事会への参加と議事録の担当
- ・主催事業へのスタッフ参加
- ・劇場など舞台芸術関係施設の訪問や京都の創作環境の見学（現在、4カ所程度を検討中）
- ・インターンシップ活動ごとのレポート作成

また、実際のインターン生の要望に応じて、昨年度同様に実践の場も検討する（昨年度実施『「気持ちのいい」創作環境を考える交流会』）。

② 【継続】 舞台芸術と表現について考えるレクチャー・ワークショップ

■ 目的

2022年度から京都芸術センターと共同主催で取り組んでいる、観客と作り手、そして作品を守るために、舞台芸術の制作や発表の場において必要な知識を学び、対話するレクチャー&ワークショップ。

■ 内容

これまでは「性的表現」、「トリガーアラート」、「インティマシーシーン」をテーマにレクチャー&ワークショップを実施してきた。今年度も、舞台芸術の現場において知識の共有と現場での検討が必要だと思われるテーマを設定し、専門家を招いたレクチャーと、参加者同士のディスカッションを行う。

③ 【継続】 京都舞台芸術協会アーカイブ／30周年企画

■ 目的

協会の歴史を辿り直すことで、京都における舞台芸術の状況の変遷を概観し、それをもとに対話を広げていくことで、将来に向けて協会がどのような組織であるべきか、また京都の環境がどのように変わっていくべきかの指針をあらためて検討する。

■ 内容

会報アーカイブ

協会では保管のできていない会報のデジタル化を行う。協会員にご協力をいただく形で収集し、デジタル化が完了次第、返却する。一部年度で行われていたメール配信会報のデータも併せて収集する。デジタルデータのリスト化、協会年表の作成も引き続き継続し、今年度中の完成を目指す。

30周年企画

2025年度が1996年の協会立ち上げから30年目を迎える節目の年であることを記念し、トークイベントを開催する。過去の理事を中心にゲストを迎え、収集された会報データを閲覧しながら、京都における舞台芸術の創作環境の変遷を振り返る。

日程：2025年8月頃を予定

④ 【継続】俳優向けワークショップ

■ 目的

身体と座学にテーマを分け、それぞれのジャンルにまつわる講師を招き、俳優の技術を向上するためのレクチャーや身体ワークを行ってもらおう。対面での実施を予定。

■ 内容

「俳優の向上とは何かを考え試行し続ける力」は、活動を続ける支えとなる。このWSではその力を養うきっかけとなることを目指し、目に見えにくい技術が求められる俳優の仕事を、物理的・具体的なアプローチから見つめなおす。対面での実施を予定。

日程：2026年3月24日（火）、28日（土）の計2回を予定

会場：京都市内

⑤ 【新規】京都から海外は目指せるか

■ 目的

アンケートを通じて、京都で活動している舞台芸術関係者が海外での活動についての関心があるかどうかを確かめ、関心が高いと判断できるならば、インターネットでは把握しきれない海外の状況について、海外での経験がある京都舞台芸術協会員を中心に情報共有する。

■ 内容

アンケートを通じて、海外での活動への関心を調査する。海外での経験がある人、海外での活動に関心がある人とで交流会を開く。

■ スケジュール

2025年

6月1日 Google フォームでアンケート実施（海外への活動に関心があるかどうかについて）

※質問事項は以下5点に絞る

例1 海外に関心があるか（ある・なし）

例2 作品を発表してみたい国はありますか。あるならそれはどこですか（ある・なし・国名）

例3 海外での創作活動経験はありますか。（ある・なし ※滞在のみ・発表のみでも可）

例4 海外での創作活動を具体的に計画したことがありますか。

例5 どんなことが具体的に知りたいですか

7月1日～7月8日 アンケート締め切り アンケートをもとに四半期だべりばで話す

9月 リアルイベント開催

C 連携事業

① 【継続】 舞台芸術プロデュース講座～演劇・ダンス編～

■ 目的

地域の舞台芸術の専門人材の知識・能力向上や発掘を目指す。特に、ユース層が広い視点でこれからの舞台芸術を考え、志す契機とする。

■ 内容

2022年から継続して取り組んでいる事業。制作者向けの連続講座をロームシアター京都、KYOTO EXPERIMENT、京都芸術センター、京都市と共同主催で実施。実施は年度後半を予定、講座内容の詳細についてはこれから各主催団体と検討・調整を進めていく。

日程：2025年10月～12月（予定）

会場：ロームシアター京都 パークプラザ3階 会議室ほか

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、KYOTO EXPERIMENT、NPO法人京都舞台芸術協会、京都市

助成：文化庁文化芸術振興費補助金

劇場・音楽堂等機能強化推進事業（劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業）独立行政法人日本芸術文化振興会

② 【継続】 「ようこそアーティスト文化芸術とくべつ授業」 へのアーティスト推薦

■ 目的

地域専門家集団である京都舞台芸術協会の窓口としての役割を果たし、市民に広く舞台芸術の魅力をアピールする。

■ 内容

京都市では、2007年度から、芸術家を小中学校へ派遣する事業を始めた（京都市が公益財団法人京都市芸術文化協会に事業委託し、京都市芸術文化協会がアーティストと学校現場の仲介を行う）。伝統芸能から生活芸術、現代芸術（演劇・ダンス）まで、幅広いジャンルの芸術家を派遣して子どもたちに「授業」を行い、優れた文化芸術の「ほんもの」に触れる機会を創出することによって、文化芸術に親しむきっかけを創り、豊かな感性や人間性を育むとともに、その中から文化芸術の次代の担い手が出てくることを目指す。

③ 【継続】 各団体への後援、共催など

前年度同様、随時募集し、理事会にて審議し承認する。

D 発信事業

① 【継続】 情報発信（WEB サイト・会報・SNS）

引き続き年2回会報の発行を行い、WEB サイト及び SNS を活用して協会で行う事業の情報発信を行う。

② 【継続】 四半期だべりば

■ 目的

四半期ごとの事業紹介や活動報告などを含め広報的な目的をもって開催する。また、2025年度はより広く協会員や外部ゲストにもスピーカーとして参加してもらい録音を配信するなど、協会活動に興味を持ってもらう入口としての役割を意識して企画を行う。

■ 内容

協会理事や事務局メンバー、各回別のゲストが協会の事業や創作・鑑賞活動に関してラジオ的に話す。

また今年度は、前年度使用していた X (旧 Twitter) に限らず、より目的に沿った配信プラットフォームを使用・検討する。

第4号議案 2025年度 収支予算（案）

収入

費目	細目	金額	備考
会費	個人会費・団体会員	¥210,000	35個人団体×6,000円
	賛助会費	¥12,000	4個人団体×3,000円
事業収入	交流会事業(創作環境)	¥15,000	参加費1000円×15人
	俳優向けWS参加費	¥48,500	参加費2,500円×14人、通し券4,500円×3人
	協会アーカイブ・30周年企画	¥15,000	参加費1000円×15人
助成金		¥0	
当期収入合計		¥300,500	
前年度繰越金		¥515,617	
合計		¥816,117	

支出

費目	細目	金額	備考
事業費			
	互助事業	¥24,000	交流会事業(会場費・飲食費・ゲスト謝礼など)
	企画事業	¥41,000	俳優向けワークショップ(講師謝金等)
		¥15,500	協会アーカイブ・30周年企画
		¥22,000	インターン受け入れ
	発信事業	¥10,000	ウェブサイト運用(レンタルサーバー、ドメイン)
		¥15,000	会報作成・発送費
	協賛金	¥10,000	演劇ビギナーズユニット協賛金
管理費			
	地代家賃	¥6,240	京都市市民活動総合センターロッカー(中)
	通信運搬費	¥30,000	郵送費、切手代、Zoom有料アカウントなど
	印刷製本費	¥2,000	理事会・総会等書類作成費用
	消耗品費	¥7,500	事務用品
	租税公課	¥1,500	印紙など
	諸会費	¥10,000	京都市芸術文化協会 会費
	旅費交通費	¥5,000	事務局交通費など
	雑費	¥5,000	
	支払手数料	¥2,500	
当期支出合計		¥207,240	

当期収支差額	¥93,260
次年度繰り越し金見込み	¥608,877

会議録（理事会）

2024年度、下記の日程で理事会を実施した。

■ 実施日時

2024年

4月18日（木）	19:00～21:00	於・京都市市民活動総合センター／オンライン（Discord サーバー）
5月25日（土）	13:00～15:00	於・オンライン（Zoom ミーティング）
6月10日（月）	13:00～15:00	於・オンライン（Discord サーバー）
7月11日（木）	18:30～19:30	於・京都市市民活動総合センター
8月14日（水）	18:30～20:30	於・オンライン（Discord サーバー）
9月27日（金）	19:00～21:00	於・京都市市民活動総合センター／オンライン（Discord サーバー）
10月20日（日）	20:00～22:00	於・オンライン（Discord サーバー）
11月28日（木）	20:00～22:00	於・オンライン（Discord サーバー）
12月30日（月）	21:30～22:30	於・オンライン（Discord サーバー）

2025年

1月20日（月）	21:30～22:30	於・オンライン（Discord サーバー）
2月10日（月）	21:30～22:30	於・オンライン（Discord サーバー）
3月27日（木）	19:00～21:00	於・京都市市民活動総合センター／オンライン（Discord サーバー）

議事録署名人の選任

以上の議事をもとに議事録を作成し、議長が選出した署名人が署名・捺印をし、所轄庁に議事録を提出します。

■ 定款の該当項目

第5章 総会

第30条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
- (2) 正会員総数及び出席者数（書面表決者又は表決委任者又はオンライン会議システムによる表決者がある場合にあっては、その数を付記すること）
- (3) 審議事項
- (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
- (5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が署名、押印しなければならない。